

2020年06月03日

【格付維持】 新生銀行グループ各社

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付を公表しました。

＜格付見直し結果＞ 格付対象は後記をご参照ください

発行者(証券コード)	発行体格付	格付の方向性	短期債務/CP
新生銀行(8303)	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
アプラスフィナンシャル(8589)	A-(維持)	安定的	—
アプラス	A-(維持)	安定的	a-1(維持)
新生フィナンシャル	A-(維持)	安定的	—
昭和リース	A-(維持)	安定的	—

【格付理由】

○新生銀行

ストラクチャードファイナンスなどニッチで専門性の高い事業領域と、買収で拡充してきたコンシューマーファイナンス事業に強みを持つ。営業基盤の規模は小さいが、経営改革の進展などで安定性は少しずつ高まっている。

金融機能をアンバンドリングし、顧客基盤を持つ提携先企業のビジネスと融合させることなどで、グループの持つ与信ノウハウや分析力などの付加価値を最大化し、顧客基盤の制約を超えた成長を目指しており、成果に注目している。

収益性は比較的高いが、利益は事業環境の変化に影響を受けやすい。リスク選好度はやや高い。リスクアペタイトフレームワークの整備が進み、健全なリスク文化も浸透しているため、リスクとリターンおよび資本とのバランスが大きく崩れることはないだろう。グループ会社との融合が進展し生産性も向上してきているが、なお改善の余地がある。

リスク耐久力はAゾーンに見合っている。信用リスクを中心にリスクは比較的大きいが、資本の蓄積が進んでいることが寄与している。市場リスクは限定的だ。公的資金の返済は課題だが、将来的な返済に際して株主還元を一層強化してもAゾーンのリスク耐久力を保っていけよう。流動性も特段の問題はない。

資産の質は比較的健康だが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で経済が大きく落ち込んでおり、下押し圧力がかかっている。リーマンショック時の反省を踏まえた慎重な与信業務運営の定着が寄与して与信ポートフォリオのストレス耐性が増しているため、コロナショックが長期化しなければ、資産の質の悪化は限定的なものにとどまるだろう。過払い金返還リスクに対してもグループ全体で十分な引当金を備えている。2019年度にある程度保守的に貸倒引当金を積んだとしているが、コロナショックが長期化し、経済の回復が遅れるようだと信用コストが大きく上振れる可能性もあり、収束の状況を注視している。

筆頭株主だった米系投資ファンドが2019年に株式を売却した一方、新たにSBIホールディングスが議決権ベースで株式の10%超を買進めた結果、日本政府に次ぐ第2位の株主に浮上している。大株主の変化が今後の経営にどのような影響を及ぼすか注目している。

○アプラスフィナンシャル、アプラス

アプラスフィナンシャルは新生銀行の連結子会社で、信販・カード事業を担うアプラス、消費者ローン事業を営むアプラスパーソナルローンなどを統括する中間持株会社。アプラスは信販大手の一角を占める。新生銀行グループは個人向けビジネスを戦略的事業と位置付けて強化・拡充しており、ショッピングクレジット、カード、ペイメントなど多様な機能を持つアプラスはグループにおける重要性が高い。中期経営戦略では個人ビジネスを1つのユニットにまとめて一体運営する方針を掲げており、グループの

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用格付以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っており、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

一体性はさらに強まっている。格付は新生銀行と同じにしている。

主要事業の収益はいずれも着実に伸びている。利息返還費用の負担はあるものの、請求は減ってきている。収益力は格付対比で低い。資産の質は問題ない。投資用マンションローンの一部で審査書類の改ざんが発覚したが、資産の質への影響は小さいとみている。優先株の消却により資本は減少傾向にあるものの、リスク耐久力は格付に見合う水準を維持するとみている。

○新生フィナンシャル

新生銀行の完全子会社で、グループの利益への貢献が大きい消費者向け無担保ローン事業の中心的な役割を担う。グループにおける重要性が高い。新生銀行が融資して新生フィナンシャルが保証する「新生銀行カードローン レイク」を2011年10月から展開してきたが、2018年4月以降の新規顧客より「レイク ALSA」として新生フィナンシャルが融資する形に戻した。中期経営戦略では個人ビジネスを1つのユニットにまとめて一体運営する方針を掲げており、グループの一体性はさらに強まっている。格付は新生銀行と同じにしている。

消費者ローンの分野で「レイク」ブランドは知名度が高い。新生銀行と合算したカードローン残高は、消費者金融專業の上位2社とは差があるものの、着実に残高を積み上げている。利息返還損失引当金の水準は同業他社と比べて高く、利息返還請求の減少により引当金に余裕が生じている。資本が厚いこともあって、リスク耐久力は格付に十分見合っている。

○昭和リース

新生銀行の完全子会社で、リースやアセットファイナンス事業を担う。昭和リースが持つ中小企業の顧客基盤や物件の価値に基づくファイナンス機能はグループにおける重要性が高い。中期経営戦略では法人ビジネスを1つのユニットにまとめて一体運営する方針を掲げており、グループの一体性はさらに強まっている。格付は新生銀行と同じにしている。

中堅・中小企業を主要顧客とし、建設機械や輸送機器のリースの取り扱いが多い。中古建機の販売商社やクレーンレンタル会社への出資に加え、神鋼リースを子会社化するなど建機の専門性を高めている。アプラスとのベンダーリースやオートリースも順調に伸びている。

リスク耐久力は格付に十分見合っている。与信ポートフォリオは小口分散し、資産の質は問題ない。デジタル化による生産性の向上（RPA）の導入やグループ間連携で効率化は進んでいるが、収益力は格付対比でやや低い。利益規模の維持・拡大は課題だ。収益力を底上げできるか注目していく。

【格付対象】

発行者：新生銀行（証券コード：8303）

名称	格付		格付の方向性	
発行体格付	A-（維持）		安定的	
名称	発行総額 （億円）	発行日	償還日	格付
第3回無担保社債	50	2015年10月27日	2020年10月27日	A-（維持）
第4回無担保社債	100	2016年10月27日	2021年10月27日	A-（維持）
第5回無担保社債	100	2018年07月13日	2023年07月13日	A-（維持）
第6回無担保社債	100	2018年12月13日	2023年12月13日	A-（維持）
第7回無担保社債	100	2019年10月10日	2022年10月07日	A-（維持）
第8回無担保社債	200	2019年10月10日	2024年10月10日	A-（維持）
第9回無担保社債	200	2020年01月23日	2023年01月23日	A-（維持）
第10回無担保社債	300	2020年01月23日	2025年01月23日	A-（維持）

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
 ■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

名称	格付		
短期債務	a-1 (維持)		
名称	発行限度額 (百万米ドル)	担保・保証 保証会社等	格付
ユーロMTNプログラム	5,000	無担保	A- (維持)

発行者：アプラスフィナンシャル (証券コード:8589)

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行予定額 (億円)	発行予定期間		予備格付
発行登録 (社債)	1,000	2018年09月04日～2020年09月03日		A- (維持)
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第3回無担保社債	100	2015年06月19日	2020年06月19日	A- (維持)
第5回無担保社債	100	2018年10月15日	2023年10月13日	A- (維持)
第6回無担保社債	100	2019年12月05日	2024年12月05日	A- (維持)

発行者：アプラス

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行限度額 (億円)	担保・保証 保証会社等	格付	
コマーシャルペーパー	2,700	無担保	a-1 (維持)	

発行者：新生フィナンシャル

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		

発行者：昭和リース

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	A- (維持)	安定的		
名称	発行予定額 (億円)	発行予定期間		予備格付
発行登録 (社債)	800	2018年08月09日～2020年08月08日		A- (維持)
名称	発行総額 (億円)	発行日	償還日	格付
第3回無担保社債	100	2018年07月31日	2023年07月31日	A- (維持)
第4回無担保社債	100	2019年12月18日	2024年12月18日	A- (維持)

☆予備格付は、個別債務の最終的な条件が決定されていない段階で予備的な信用格付が必要となる場合に、付与する評価です。個別債務の最終的な契約内容等によっては、予備格付とは異なる信用格付が付けられることがあります。

☆MTNプログラムに対する信用格付はプログラムを対象としており、プログラムのもとで発行する個々の債券に対する信用格付ではありません。個々の債券の信用格付は通常、同プログラムの信用格付と同一ですが、クレジットリンク債、インデックスリンク債など個々の債券の契約内容によっては、同一とならない、あるいは格

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
 ■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っており、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

付しないことがあります。R&Iは依頼に応じて、個々の債券にも信用格付を付与することがあります。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

信用格付に関わる事項

信用格付業者 登録番号	株式会社格付投資情報センター 金融庁長官（格付）第6号 直近一年以内に講じられた監督上の措置は、ありません。
主任格付アナリスト	新生銀行、アプラスフィナンシャル、アプラス、 新生フィナンシャル：松島 賢宗 昭和リース：大内 祥子
信用格付の付与について 代表して責任を有する者	住田 直伸

信用格付を付与した日	2020年05月29日
主要な格付方法	事業法人等の信用格付の基本的な考え方 [2018. 05. 31] 金融機関等に共通する格付の考え方 [2020. 03. 23] 預金取扱金融機関 [2019. 02. 21] 消費者金融 [2017. 04. 25] クレジットカード・信販 [2019. 06. 19] リース [2020. 04. 24] 金融グループの格付の考え方 [2018. 08. 09]
上記格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに以下のウェブサイトに掲載 しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_method.html	
評価の前提は、以下のウェブサイトの格付付与方針に掲載しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/rating_grant.html	
格付符号とその定義は、以下のウェブサイトに掲載しています。 https://www.r-i.co.jp/rating/about/definition.html	
格付関係者	新生銀行、アプラスフィナンシャル、アプラス、 新生フィナンシャル、昭和リース
注 格付関係者は、金融商品取引業等に関する内閣府令第三百七条に基づいて、R&Iが判断したものです。	
利用した主要な情報 品質確保のための措置	決算書類、開示情報、格付関係者から入手した情報等 公認会計士の監査済みである、またはそれに準じた信頼性が確保され ている決算書類であること。一般に開示された、またはそれに準じた 信頼性が確保されている情報であること。格付アナリストが妥当性を 判断した情報であること。
情報提供者	格付関係者
信用格付の前提、意義及び限界 R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約 定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見です。R&Iは信用格付によって、個々の債 務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何 ら意見を表明するものではありません。信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来 の事実の表明ではありません。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその 他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項 について、いかなる保証もしていません。 R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じていますが、これら の情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、必要と判断した場合 には、信用格付を変更することがあります。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信 用格付を取り下げることがあります。 利息・配当の繰り延べ、元本の返済猶予、債務免除等の条項がある債務等の格付は、その蓋然性	

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp
■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

が高まったとR&Iが判断した場合、発行体格付又は保険金支払能力とのノッチ差を拡大することがあります。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性(信用力)に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付(変更・取り下げ等を含む)に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。